

平成18年度 事業報告書

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会

I 事業期間 平成17年10月1日～平成18年9月30日

II 事業の成果

本年度も、昨年同様にウミガメ類に対する社会的な関心と、そこから発生する専門的な知識や技術の必要性の高まりに対応するために、多くの活動を行った。

ウミガメ類の保護を行う場合、生息・採餌範囲の特定は重要かつ急務であるため、本年度も衛星受信による発信器を取り付けた個体から得られたデータによりその行動の一部を明らかにした。

関係各所が開催する講演会や勉強会においてウミガメの視点からその保護と環境問題への啓発を促したり、未だ不明な点の多いウミガメ類の基礎的な生態を解明するためにサンプル収集を積極的に行い、これを多くの研究・保護活動を行っている者に提供し、情報を集積・還元する事ができた。

他にも、国内外のウミガメの現状を知ってもらうために作成したホームページによる情報の収集・公開と共有により、ウミガメの研究や保護活動の底辺の拡大、発展及び育成に寄与することができた。

海外での活動については、公益信託地球環境日本基金の助成を受け、ベトナムにおけるウミガメ調査(2/2～2/7)と、現地でウミガメ保護に携わる人材としてLe Thi Quynh Han女史を招聘してトレーニングを実施した(2/7～3/30)。

これらの事業や活動のサポートによって、日本のウミガメに関する知見が集積され、その保護や環境保全対策を構築していく上での貴重な資料が得られつつある。今後も継続して活動を行い、環境の保全を図る活動に寄与していきたい。

III 事業の実施状況

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 事業名 ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全に関わる事業

1) 衛星追跡によるアカウミガメ生息・採餌域調査

(内容) 北太平洋において日本にのみ産卵場をもつアカウミガメの生息・採餌域の把握とその保全につながる基礎情報の入手を目的に、各地でウミガメに衛星による受信が可能な発信器を取り付け放流し、その移動経路や定着域を追跡した。

(場所) 高知県室戸市、鹿児島県野間池、ほか。

2) ウミガメ産卵地及び定置網の現状調査

① 南日本のウミガメ産卵地における現状調査

(内容) 南日本(特に南西諸島)を中心としたウミガメ類の産卵する海岸周辺において、現地で保護調査を行えるボランティアを発掘し、調査用具・情報の提供や技術指導を行い、地域発信型の自主的な保護活動を行えるような体制づくりを行った。

② 高知県室戸市における定置網ウミガメ調査

(内容) 室戸市高岡の高岡大敷組合の協力を受け、調査員1～2名を常駐させて定置網に混獲されるウミガメの調査を実施した。

③ 鹿児島県笠沙町における定置網ウミガメ調査

(内容) 鹿児島県笠沙町野間池において、野間池漁業協同組合および鹿児島大学ウミガメ研究会の協力を受け、同地の白瀬定置網他で混獲されるウミガメの調査を実施した。

調査用具配布実績：ノギス2本、タグ1783個、パンチ等12丁 ほか
(場所) 鴨川シーワールド、新江ノ島水族館、三重大、東大海洋研、室戸、野間池、大洗水族館、美ら海水族館、ELNA、沖永良部、水産総合研究センター、他

3) 海外ウミガメ類調査

(内容) ベトナムにおけるウミガメ調査(2/2~2/7)と、現地でウミガメ保護に携わる人材としてLe Thi Quynh Han 女史を招聘してトレーニングを実施した(2/7~3/30)。(公益信託地球環境日本基金助成対象事業)

4) その他 委託事業等

環境省自然環境局委託 モニタリングサイト1000選定業務
環境省生物多様性センター委託 アカウミガメ衛星追跡
損保ジャパン環境財団 ラーニング制度インターン生受入業務
明石市アカウミガメ保護サポート業務
徳島県自然環境協力員の育成業務
相良自然環境塾の共催(カメハメハ王国)、
神戸動植物環境専門学校卒業生2名をインターン生として採用
神戸動植物環境専門学校卒業生1名をボランティアとして採用

事業収入	43,965,356	円	
事業支出	事業費	17,661,598	円
	人件費	3,034,359	円

(2) ウミガメ研究・保護活動の発展と育成に関する事業

1) 小笠原海洋センター運営事業

(内容) 2000年4月に東京都海洋環境保全協会より小笠原海洋センターの運営を引継ぎ、従来からのアオウミガメ産卵調査、人工孵化飼育、ザトウクジラ回遊調査、展示館維持運営等の事業を、小笠原村の補助を受けながら実施した。

(期間) 2005年10月1日~2006年3月31日

事業収入	2,052,750	円	
事業支出	事業費	1,018,500	円
	人件費	0	円

2) 黒島研究所運営事業

(内容) 2004年4月に、名称を八重山海中公園研究所から黒島研究所と改名した。従来からのウミガメ産卵調査、サンゴ礁調査、展示館維持運営等の事業を実施した。

事業収入	3,752,326	円	
事業支出	事業費	7,239,931	円
	人件費	570,000	円

(3) 事業名 日本ウミガメ会議の開催に関する事業

1) 第16回日本ウミガメ会議(黒島会議)の開催

(内容) 国内外におけるウミガメ類の調査・保護状況の発表や、会員及び関係団体等との相互連絡と情報の収集及び提供、2005年度のウミガメ類の産卵状況などの取りまとめ

を行う事を目的に開催。特別講演には、アメリカより Alonso Aguirre を招聘した。
(日時) 2005年11月18日～11月20日
(場所) 沖縄県八重山諸島黒島 黒島小中学校体育館
(対象) 一般

2) 第17回日本ウミガメ会議(熊野・七里御浜会議)の開催準備

(内容) 国内外におけるウミガメ類の調査・保護状況の発表や、会員及び関係団体等との相互連絡と情報の収集及び提供、2006年度のウミガメ類の産卵状況などの取りまとめを行う事を目的に、2006年11月18～20日に開催予定。本年度は開催地を見や関係各所との打合せを行い、開催の準備を進めた。

(対象) 一般

事業収入 5,919,869円

事業支出 4,001,608円

(4) 事業名 会員及び関係団体等との相互連絡と情報の収集及び提供に関する事業

1) ホームページによる情報収集・発信

(内容) 日本ウミガメ協議会の沿革、目的や活動等を広く一般に伝えるための手段の一つとして、インターネット上にホームページを設置し、情報の収集や提供を行った。

(日時) 事業年度期間中(10月1日～9月30日)

(対象) 一般

2) 機関紙「マリンタートラ」の発行

(内容) 日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、機関紙「マリンタートラ」第8号および第9号を発行した。今後も年2回の発行を予定する。

(日時) 2006年5月10日、2006年9月10日発行

(対象) 会員および一般

3) ウミガメ速報の配信 計 37回

(内容) ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックス等を利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。

(日時) 事業年度期間中(10月1日～9月30日)

(対象) 会員および一般

事業支出 33,188円

(5) 事業名 情報誌の作成に関する事業

1) 「うみがめニュースレター」の発行支援

(内容) うみがめニュースレター編集委員会が発行している情報誌「うみがめニュースレター」に原稿を掲載するとともに、発行経費を支援した。

(日時) 事業年度期間中に4回発行(2005年10月31日、2006年2月10日、6月30日、9月1日)

(対象) 一般

事業支出 915,700円

以上